



# 広島災害復旧支援の ボランティア活動を行つてきました

八月二三日（土）八時に豊住顧問と古川係長、私の三人は職場の皆様の見送りを受け、神守研究開発センターから広島の被災地に向け出発しました。少しでも災害現地の手助けになればと強い気持ちで四tトラックに乗り込みました。広島出張所に一六時に到着、早速歩いて土砂災害現場を見て回りました。

沢山のボランティアの方々が土砂を土嚢袋に詰め、道端に積んで道路の復旧を行っていました。土砂崩れの上流に進むと消防士の方々がビニールシートを高く持つて目隠しを作り、亡くなつた方を運び出していました。その隣では自衛隊による捜索活動が行われていました。付近にはまだ多くの方が埋まっていると聞き、少しでも早い発見を祈るばかりでした。

二四日（日）八時から八木地区にてセンターから持つてきました太洋製一tクレーン付クローラー顧問から広島の災害支援を行ふと聞き、太洋製一tクレーン付クローラ運搬車やハイウオッシャー等をクレーン付四tトラックに積み、翌三日に被災地へ出発しました。

広島出張所に到着すると新聞やテレビで見た光景が一km程ありました。自衛隊や警察、犬が臭いを嗅ぎ捜索している様

ラ運搬車を被災地に運び入れました。山の上流から水が湧き、道路が冠水し、ダンプが入ることでできない場所での作業になりました。大洋製一tクレーン付クローラ運搬車にて土嚢に詰めた土砂を運び出す作業を行い、多くのボランティアのから当機の活躍に絶賛の評価頂きました。午後からは一tパクにて一度に大量の土砂を運搬する事ができ、大変感謝されました。

東日本大震災や広島豪雨災害でボランティア活動を経験し、困っている人がいれば手を差し伸べるという人として当たり前の行動を再認識することができました。また、多くの人の気持ちは一つになれば大きな力となり、どんなことでも立ち向かって行ける力をもつて帰ることができました。今後できることは募金とか現地の様子を伝えていくことで協力できるのではないかと思いました。

る車を多く見かけます。車の換気機能が良くなり、昔のように、窓を開けて車内の空気を入れ替えて、音による情報を絶つてしまふのは、安全のためににはマイナスですし、マナーとしても望ましいことだとは思えません。

運転というのは、道路という公共の場で、周囲に迷惑を掛けぬよう気遣いながら行うべき行為だということを忘れてはなりません。車をまるで「動く個室」でもあるかのように考えている人も少なくないようですが、車

窓を開け、音による外部の情報の収集を図るのは、そのたぐいに欠かすことのできない安全対策の一つなのです。目による認定の前に音で気配を察知するによって、見落としを防ぎ、早めの対処が可能になるからです。例えば、運転者の死角か接近してくる他の車や傍をすばり抜けていこうとする二輪車などを見つけるためにも極めて有効な手段です。緊急車両のサレンにもいち早く気付けて、大切な対応を取ることができるのです。

ぜひ、車外の音が聞き取れよう、窓は少しだけ開けておき、という習慣を付けたいものですが、運転席だけでなく、助手席側窓も均等に開けておくことが大切です。そうしないと、音の角が生じるだけでなく、的確な音源の位置を把握することができないからです。

もちろん、エアコンを使用している際も同様です。窓を開くくらいでは、エアコンの効果的に特に影響はないと思いまます。それに、エアコンを作動させばかりのときは、送風音など大きくなり、他の音が聞き取れなくなるおそれがありますから、早く空調を利かせたいばかりに窓を閉め切つたりするのないよう注意したいのです。

## 安全運転だより

室、中でも運転席は自宅の部屋



## 新入社員紹介

全大会・・・など安全に関する事で、会議や催しが定期的にある事で、別業種から転職した私には驚きました。現在は九州支店で主に